

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300151		
法人名	株式会社 ラディカ		
事業所名	グループホーム フォーシーズン		
所在地	宇城市松橋町久具2059-1		
自己評価作成日	平成27年1月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症により、自宅での生活が困難になられた方でも、家庭的な雰囲気の中、職員・入居者同士馴染みの関係を築きその人らしく暮らして頂けることを心掛けています。そのために、ご本人の希望や意見を尊重し、些細な事でもご家族と相談しながらケアの提供を行っています。食事、入浴、排泄等の介護や日常生活の支援を行います、「ご本人の持っている能力(出来ること)を引き出し、今まで出来ていた事がこれからも出来る」事を大切に考え、毎朝必ず玄関の掃き掃除をしてくださる方、食事の支度や片付けをして下さる方、お一人おひとりそれぞれの「出来ること」に取り組んで頂いています。また、併設の小規模多機能やサービス付き高齢者向け住宅との合同行事やイベントに参加することで交流を深めて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護事業を展開する法人の実績や経験を活かし、新たに認知症の方々の日々の暮らしを支えるホームとして26年6月に開設されている。これまでの地域との深い結びつきがホーム運営に生かされ、住民からの見守り支援等協力を得ながら生活基盤を作っている。入居者個々の特性や得意分野を理解し、それぞれが主体的な行動が出来る様見守り、必要時には手助けが出来る様距離や間合いを保ち、掃除をしたり、食後の後片付け等生活リハビリを随所に取り入れる等、教育が徹底した職員はその人らしさや生きがいのある生活支援に明るくケアに取り組んでいる。また、理念である「一人ひとりの今までの歩みを大切に、一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。」の実践であることが職員との個別外出を心待ちに過ごされる入居者や、居室に掲示された個別のカレンダーに表れており、「瞬間・今」を視点にした姿勢がこのホームの特徴である。高齢者であれども、地域の中で輝いて生活できる喜びが、多くの外出や写真の中で垣間見えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の「一人ひとりの今までの歩みを大切に、一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。」を玄関に掲示し、カンファレンス時やミーティング時など話し合いの場では常に確認し実践に繋げている。	法人の理念を継承し、入職時法人としての福祉への思いや理念を説明している。理念を共感できる人として職員教育を徹底し、日々の暮らしを支えるホームとして利用者の話をじっくりと聞き、今の思いをないがしろにしない事・できないままにしない事を管理者は指導している。理念を想起させたカンファレンスやミーティング等ケアの原点とし、“今 この時”を大切にしたいケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープンして半年と日が浅く地域との交流はまだあまり無いが、グループホームの活動などフォーシーズン便りを発行し地域の回覧板で掲示、少しでもグループホームの活動を知ってもらう機会にしている。今後は、地域のイベントなどにも参加して行きたいと思っている。	区の一員としての区費を支払い、地域に向けた“フォーシーズン便り”を情報発信源や啓発の一環としている。区長からの地域行事情報を活かしながら、敬老会やどんどやに参加し、参加時には民生委員からの見守り支援を受ける等地域から優しく見守られるホームである。また、散歩時には地域からの声かけもあり、近くの商店に万が一に備え見守りの協力をお願いしている。	開設して日は浅いが、隣接する系列法人の取り組みがグループホームでも継続されており、グループホームにも近隣住民の立ち寄り等が多くなるものと期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に区長や民生委員の方に参加して頂き、認知症の方の理解と支援方法を説明し、地域で困っている人が居ないかなど意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日頃の入居者の様子や生活状況、グループホーム内での問題点など事例報告を行い参加者の方々からの意見をサービス提供の参考にしている。	先行する小規模多機能ホームと合同で開催し、利用者の状況や入退居の理由及び2ヵ月間の外出等視覚を通じて報告している。また、参加者からの意見や提案、及び地域情報を把握する機会としてサービス向上に反映させている。雑談の中からも地域高齢者問題等課題を見出す等有意義な会議が定期的に開催されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催や、グループホーム連絡会に参加し、疑問や日頃のケアについての相談を行うことで協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議時に防災等の様々な助言を得たり、管理者は頻繁に行政に足を運び不明な点等細かな事まで相談したり、メールでの相互連絡を取り合い、行政からもプランのサイン方法の相談を受けたり、宇城圏域の勉強会へ行政も参加される等相互の良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の勉強会や事業所内で勉強会を開き、身体拘束について学び、ミーティングなどで職員同士注意し合うことで確認している。	身体拘束廃止に向けたホーム内外の研修やテスト形式により意識を強化させている。夜間の施錠や、「危ないですよ」等の言葉がけ及び安全対策でも安易に施錠しないことや常態化しないよう全員で話し合い、入居者の帰宅願望や外出傾向を把握し、所在確認の徹底や見守りを強化している。また、実例を通じ職員の配置場所を話し合い、近隣商店に見守りをお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会に参加し、事業所内でも勉強会を行っている。日頃のケアで不適切なケアはないか職員同士ミーティングで話し合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度について学ぶ場は少ないが今後は、外部研修や勉強会を活用し学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時や、契約時にはご本人やご家族からの疑問や質問には丁寧に答え、不安なことは無いか十分に話を聞き、納得して頂けるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話を受けた時など入居者やご家族からの意見・要望はその都度職員に伝え、ミーティング時に管理者と職員で話し合い可能な限りケアの実践に努めている	入居者は「花を植えたい、銀杏拾いに出たい」等職員に直接申し出られる等お互いの良好な関係が要望等言い出し易い環境となっている。家族には訪問時状況を説明し、要望等を聞き取りしている。また、遠方の家族には随時の電話連絡やメールにより情報交換や要望等を収集し、ケアサービスに反映させている。また家族会が開催されておらず、今年度は開催する意向である。	家族会の開催に向けた計画もあり、家族の忌憚りの無い意見や要望を収集する機会として大いに期待したい。また、家族の言い出しにくいという心情に対し、意見箱を設置されることを検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は週1回会議に出席し、会議内容を職員に伝えミーティングで話し合うようにしている。ミーティングで出た内容は、再度会議で挙げている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、ミーティング時職員の意見や提案を収集し、法人全体での管理者会議の中で各事業所の事例や現状等を元に意見交換を行っている。職員の提案事項を入居者にとってのメリット(それがあること入居者とのどんな会話ができるのか)・デメリット(危険性)等なぜそれが必要か理由付けを繰り返し話し合う等職員の意見・提案を全員で精査しサービスに反映させている。また、職員は目標を立て、半年毎に振り返り、代表との個別面談を行い、希望休や子育て中の勤務時間の優遇等により働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と個人面談を行い、職員の特性などから異動や昇格の検討を行っており、本人の家庭環境なども考慮し働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宇城圏域の勉強会に参加したり、毎月1回スタッフ勉強会を開き可能な限り出席を促している。また、資格取得に向け勉強会を開くなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は宇城地区グループホーム連絡会に出席し、また職員は同連絡会主催の勉強会に出席するなどし、意見交換などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご家族やご本人とゆっくり話を聞く機会を設け生活暦や好きな事、興味を持たれている物などの情報を収集し、ご本人の今までの歩みを知り大切にするとを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に至るまでご家族が望んでおられる事や、不安に思っている事を直接会って聞き、遠くに居られるご家族とはメールでやり取りを行い、どのように支援していくかをご家族と一緒に考えることで関係を築けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様やご家族と面談を行い生活暦や既往歴、要望などを伺い、前ケアマネージャーからの情報提供をもとに全職員でカンファレンス開きサービス内容を検討し、必要な支援が出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に生活する家族のような存在として、入居者お一人お一人の生活スタイルを大切にし、掃除をしたり、食事の準備や片付け、洗濯物を干したり畳んだりを職員と一緒にして頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人様の関係を大切にし、ご家族との外出や外泊などいつでも出来るようにしている。また、ご家族へ入居者の状況を電話やメールなどで報告し、情報を共有する事で職員とご家族一緒に支援できるよう心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接のサービス付き高齢者向け住宅に住まわれている知人との交流や、近所に住まれている兄弟の面会なども自由。入居前に小規模多機能を利用されていた方などは、希望があればいつでも遊びに行くことが出来るよう支援している。	本人がこれまで培ってきた人・場所を家族等から把握し、かかりつけ医の継続や馴染みの美容室の利用を家族や職員が支援している。また、家族や兄弟、知人や教え子等の訪問、「家を見に帰りたい」との希望に応え支援する等これまでの関係性を継続して支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中で時には口論になる時もあり、その都度職員が間に入り対応している。中には、ご自分の自室に招かれ談笑し、お茶をされる場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が理由で退所された方でも、定期的に面会へ行き、状況を確認したり、ご家族と連絡を取りいつでも相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント kiu					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣などを入居時に確認し、出来るだけ希望に添えるよう定期的にカンファレンスを行い、日常のケアの中でも起床・就寝時間、食事や入浴・外出等個別に対応するよう心掛けている。	職員は入居者と良く会話を交わし、その中から思い等を把握している。身体的には元気な入居者が多く、「いっしょにしましょう」と声掛けしたり、発語困難な方には答えやすいような会話に努めている。また、入居歴も浅く、“家に帰りたい”や“なぜここに居るのか”等の思いを汲み取り、家族に相談し一緒に出かける等、個々の思いに寄り添い、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時や入居時、ご家族・前ケアマネジャーから情報を収集している。入居後もご家族の面会時や電話で生活状況を報告し、再度ご家族からの情報を収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で入居者の表情や会話などから心身状態を把握し、個々の能力に応じたお手伝いをして頂いている。職員間では、ミーティング時や申し送り時情報を共有するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意見を尊重し、必要時には主治医からの情報をもとにアセスメントを取り、ケアプランを作成している。日々の生活を基にモニタリング・カンファレンスを行い職員同士意見交換し、ケアの提供に努めている。3ヶ月に1回と必要時には、プランの見直しを行っている。	本人の思いや家族の希望をもとに今までの歩みを大切に入居者個々にあわせたサービスや、四季折々の行事や楽しみのある生活等理念を反映させたプランを作成している。毎月のモニタリングや短期目標である3ヶ月毎に評価し、半年毎に新たなプランを作成している。また、不穏状況等個別の状態に応じた緊急カンファレンスや介護認定更新に合わせ担当職員がアセスメントから取り直すこととしており、具体的且つ詳細なプランである。	プランに即したケース記録や個人申し送りノートには職員の観察(気づき等)結果や入居者・家族の意見や要望、主治医の指示など詳細に記載され全職員が共有している。モニタリング及びカンファレンスの結果をプランに反映すべく追記や削除を行う事で、更に職員の観察結果を活用されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時や申し送り時に食事量・水分摂取・排泄・睡眠・発言や行動などの情報を共有し、すべて記録に残し振り返ることが出来るようにし、ケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族が希望される事は対応出来るよう努め、帰宅欲が強い方は本人が納得されるまで一緒に行動し、時には職員と一緒に自宅で半日過ごすなど個別に対応するよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅に帰られた際、近所の方と話が弾まったり、行きつけの美容室にご家族と外出される方もおられ、住みなれた地域での関係を維持出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医協力のもと、体調の変化や緊急時にはご家族に連絡し、いつでも受診や往診が出来るようにしている。	入居時に協力医療機関があることを説明しており、遠方からの入居者の中にはかかりつけ医を変更されたり、これまでのかかりつけの専門医を継続される等、入居者・家族の納得の得られたかかりつけ医である。協力医からの毎週の往診や夜間でも駆けつけてくださる協力医の存在は入居者・家族の安心感のみならず職員の夜間のストレス軽減にも繋がっており、日頃の健康チェックでの不安面も協力医に相談する等協力関係を築いている。専門医への受診は家族と協力し合いホームから同行したり、歯科からの訪問等個々に合わせた適切な受診に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員は居ないが、日々のケアで気づいたことや、変化・緊急時などは協力医の看護師にいつでも電話相談でき、必要時は往診してもらい、良好な関係性を作れており、その都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が定期的に面会に行き、状況の把握に努めている。また、担当ナースや相談員とも連絡をとり、その都度主治医にも報告し、いつでも退院出来る体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族へ説明は行っているが、今後予測される事についてご家族との話し合いはまだ出来ていないため、早い段階で再度ご家族に説明を行い一緒に考えて行ける様にしたい。	入居者の体調変化により重度化が見込まれる時は、入居者・家族の希望に沿い協力医との連携でホームで出来得る支援に取り組んで行く事を入居時に伝えている。重度化・看取り対応に関する指針を作成しており、今後家族に説明し個々の意向や事前指定書等についても話し合っていく意向である。	重度化・終末期ケアについて、家族会の中で説明したいとしている。まだ開設して日は浅いが、今後に備え家族との話し合い等順次進めて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修で学んだり、事業所内でもAEDなどの勉強会を行っているが、実践的な経験は無く、今後も訓練をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと防火・避難訓練を年2回予定し、実施している。今後は夜間を想定した訓練や職員の連絡体制を整えたいと考えている。また、地域の方の協力も頂ける様な体制を築いて行きたい。	開設後昼間想定火災避難訓練が行われており、2回目は運営推進会議と合同で実施する計画である。防災機器の点検や消防署の立ち入り検査を受け、リビングにストーブを置く事については職員間で十分に話し合いを重ねている。災害対策マニュアルを整備し、自然災害に対しては運営推進会議で意見交換がされている。	連絡網訓練などの実施と共に、AEDの設置についても地域に発信する事でホームや法人の地域貢献の一環となる事が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室への入室ときちんと本人に許可を得るように徹底し、トイレ誘導時などでプライバシーを損ねるような発言や態度が無いかミーティングやカンファレンス時に職員同士話し合いを行っている。	接遇等職員研修を徹底しており、職員間の意識も高く、会話の方法や声のトーン等に注意を払い、排泄時等はプライバシーや尊厳に配慮しながらさり気ない支援に努めている。又、親しみを込めた話しかけが馴れ合いとならないように努め、職員の表情がホームの雰囲気作りとなる事をミーティング等で共有している。個人情報の取り扱いについては写真を含めた使用同意を交わし、職員の守秘義務の遵守に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定の場は多く、その都度様子観察を行いご自分の意見や思いを言える環境づくりに取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時間などはなく、その日に散歩に行きたい方や、買い物に行きたい方など個別に対応し、やりたい事があると実践できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや、お出かけ時の着替えは入居者の方々が選び着ていただき、できない方はその都度確認し着用して頂いている。男性入居者は起床時髭剃りの声かけを行いご自分でされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや、食事の盛り付け等職員と一緒に準備して頂き、食器の片付けも体調に合わせてお手伝いされている。昼食時は、職員も一緒に食べ会話を楽しみながら食事をして頂いている。また、ホーム内で食事を作っていないので、食事レクを取り入れ昼食作りを行っている。	法人厨房で調理された食事を入居者と一緒に配膳したり、ホームでの炊飯及び朝食作りなど、食事を準備する音や匂いが五感を刺激している。又、鍋パーティーやお好み焼き・おやつ作り等の食事レクを取り入れたり、行事食や誕生日ランチ・外食等の楽しみを支援している。入居者に合わせ刻み過ぎない様に検討しながら、食事時間は職員も入居者と同席し検食者による意見を厨房に挙げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が把握できるよう記入し、摂取量が少ない方は、主治医に相談し対応している。必要な方には、水分不足にならないようチェック表を用いおり、いつでも好きな物が飲めるよう準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず自室にてスタッフ見守りにて口腔ケアを行っていただいている。入居者の能力に合わせ磨き残しが無いよう確認お手伝いしている。また、訪問歯科診療利用し、定期的に口腔ケアをされている方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員排泄チェック表を作成し、お一人お一人の排泄パターンをミーティングやカンファレンス時に職員全員で把握、話し合いを行い個々に合わせた声掛けや、誘導に取り組んでいる。夜間のみ失敗がある方には、家族と話し合い夜間のみリハビリパンツを使用している。	排泄チェックを基に入居者個々のパターンを把握し、職員は手引き歩行での誘導やサインを察知しながら声かけし、昼夜を問わず全員トイレでの排泄を支援している。又、昼夜で排泄用品を使い分ける事で失敗を減らし気持ち良い排泄に繋げ、在宅でのポータブルトイレ使用者も、現在は歩行訓練を兼ねながらトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い形状や量など出来るだけ把握できるよう本人や排泄後の確認を行っている。必要に応じて水分チェック表を作成し、主治医より処方された薬で調整をしている。毎日の体操や便秘の方には腹部マッサージを行うなど自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は決まっているが、本人の希望があれば曜日や時間帯など個々に合わせ気持ちよく入浴出来るようにしている。	毎日入浴できるように準備し、一日置きを目途に入居者の希望に添いながら支援している。家庭的な浴室は毎回湯を入れ替え清潔で気持ち良い入浴に取り組み、拒否時には声かけを工夫している。又、ゆず湯等季節感や気分を変えた入浴を取り入れ、温泉ツアー等が企画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方々の生活歴や習慣に合わせ午睡時間を設けたり、夜間不眠だった方や、外出後は時間を決め休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースに薬の説明書を貼用し、スタッフ全員が理解、把握できるようにしている。常時状態観察を行い状態や症状の変化がある時は主治医に相談し指示を仰いでいる。また、薬の変更があった場合は申し送りノートに記入し、全員が把握で出来るように。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や食事の準備では、負担にならない程度のお手伝いをして頂き、それぞれが得意な事を見つけて生活をされている。また、毎日のコミュニケーションの中でやりたいこと、好きなことなどを把握し実践できるよう心掛け支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月グループホーム内での行事や外出などが記載してあるカレンダーをお一人お一人に配布している。それ以外でも本人希望で、散歩や買い物等その都度対応し、新聞やチラシに載っているイベントや地域行事にも参加できるよう努めている。	近隣への散歩や買い物、法人との合同行事等外出の機会も多く、地域行事にも積極的に参加している。又、自宅訪問等個別に支援したり、ホームの行事予定を居室に掲示し職員との個別外出を楽しみにされたり、イベントに行きたいとの希望に応える等今出来る支援の充実に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預らせて頂き、ショッピングや外出時には本人様が支払いが出来るよう支援している。また、ご自分でお財布を持たれている方もおり、散歩のついでにコンビニに寄り好きな物を購入されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は、自室でゆっくりとお話され、その他の方は、ご家族からの電話を取り次いだり、いつでも電話を掛けられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入浴後は必ずお一人お一人掃除をし、お湯の入れ替えをしている。共通トイレ内はこまめに掃除を行い次の方が不快にならないよう心掛けている。玄関やリビングには季節の花を飾り、室内の温度や湿度の調整をする事で快適に過ごして頂いている。	近代的な建物や庭の竹等でおしゃれな雰囲気、気が漂うホームは、掲示物や余分な飾りを避け、生け花や入居者と一緒を買った鉢植え等が季節感となり落ち着きを醸し出している。床材や浴室・トイレ等は扉の色を使い分けたり、手すりを工夫する等安全面に配慮され、小まめな清掃や温湿度管理で快適な環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で馴染みの方同士でお話されたり、窓辺に座り新聞を読まれたり、日記を付けたれる方もおり一日思い思い自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具やご家族の写真お好きな本等があり、殆どがご家族や本人様の思いを大切にし、安心して過ごして頂けるようにしている。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを説明し、テレビやダンス・ソファ・冷蔵庫等思い思いの品物が持ち込まれている。壁面には家族写真や外出予定・気になる広告等を掲示し、職員と一緒に整理整頓や清掃をされる方もおられる。水筒を置き水分補給したり、部屋で日記を付ける等其々が自分の部屋として使用されており落ち着ける場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人に合った「できること」を毎日して頂いている。掃除や食事の準備は出来るだけ職員と一緒に、職員がお一人お一人のケアを統一し、安心して生活できるよう支援している。		